

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1090201227		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームあさま		
所在地	群馬県高崎市上並榎町95-1		
自己評価作成日	令和4年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和4年4月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・閑静な住宅街のなか近くにスーパーや薬局などもあり買い物などもでき生活しやすい所に施設がある。 また同グループのホームが併設されており外気浴や隣のホームの方ともコミュニケーションを図りやすい環境が整っている。コロナウィルスの影響で外に出る機会が少なかった為、体を動かす体操やお手伝いなど積極的に行っている。また室内で出来る行事など今後も増やしながら対応していきたい。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員が日常の支援時、丁寧な対応を心がけ実践している。利用者への言葉かけは近づいて、ゆっくり、利用者が自ら選択できるような問いかけをする等、元気な利用者が多いことを考慮し、利用者の思いを引き出すコミュニケーションに努めている。また、食事の片付けや洗濯の手伝いに積極的な利用者が、今できることを続けていけるよう支援したり、排泄についても利用者の尊厳に配慮した工夫をしている。職員が利用者を大切にすることによって、利用者は自分が大事にされている満足感を持ち、それは生きがいに繋がる。職員が自らを律した姿勢でケアにあたり、利用者に安心感のある穏やかな生活をもたらしている様子がうかがえた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議の時に唱和を行っている。事務所にも掲示している。	職員が自宅での生活に近い環境でケアをすることを念頭に、慌てず、忙しそうに見せない利用者本位の対応に取り組む姿勢に、ホーム長は理念に沿ったケアができていると評価している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナウイルスの関係により上手く交流が出来ていない。今後は行事等も含めて考えていきたい。	現在はコロナ禍前のような地域、外部者との交流はないが、区長とは連絡をとっており、回覧板等で地域の情報を得て、状況を把握している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスが落ち着いたら認知症の事など知っていただける行事を考えたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナウイルスの関係で開催できていないが家族と連絡を取りサービス向上に生かしている。	会議の開催は中止している。年末の挨拶の中で事業所の内容を説明したり、年度末にまとめて記録等の書類により情報を家族に伝えている。	会議は書面開催とし、記録はできているということなので、2ヶ月ごとに家族と通常の出席者に送付してはかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在コロナウイルスの関係で開催できていないが今後は運営推進会議などに参加していただき協力関係を築きたい。	事故報告等、必要な報告事項を法人の課長が担当し、行政と連携を図っている。介護保険の更新は家族が行っているが、必要があれば代行している。また、認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は安全性を考慮した関係で施錠はしているが、ベランダなどを使い外に出る時間を作っている。また身体拘束に関しては職員会議の中で話し合っている。	コロナウイルスの影響もあり玄関は施錠しているが、外気浴等の希望があれば職員が付添って対応している。他の拘束はない。3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催し、内容を共有している。	玄関の施錠は身体拘束にあたるので、開錠できる時間帯を作り出す工夫をし、身体拘束をしないケアに取り組んでほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1度身体拘束適正委員会を開催し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を利用する方は居ないが必要な場合に備えて職員会議の議題にしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に入る前に施設見学、状態確認や申し込みを経由して契約を行っているの中で説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在コロナウィルスの関係で外部者への機会は無いが家族との電話やガラス越しの面会時を利用して反映させている。	利用者からはいつでも話を聴くことに努め、外出したい、家を見に行きたい、畑を見たいといった内容をケア記録に残している。家族、利用者からの要望があり、ガラス越しの面会を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務日報を使い職員の日頃の考えや意見など確認している。	職員は利用者の状況がよくわかっているので、日常的なケアや利用者自身についての意見や提案があり、直近では、家族が亡くなった利用者の葬儀出席に反映された取り組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課がありそこで面談し評価など行う。またその面談の中で日頃の思いなども聞き出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在コロナウィルス関係で出来ていないが職員会議の中で学ぶ機会があり生かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナウィルスの関係で出来ていないが本来なら本社での管理者会議や発表会などがありそこで意見交換など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	状態確認時や見学時などを利用しその中で対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に管理者かケアマネが家族と話す時間を設け対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に聞かせて頂いた意見を参考にケアプランの作成させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の業務の中で利用者様と話す時間を意識して業務にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が家族の方と疎遠にならないように面会や電話など今できる範囲で対応を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスが原因で制限はあるがガラス越しでの面会が行える中で家族の方以外でも友人や兄弟の方とも関わられるよう対応した。	退院後入居した利用者には、家族との関係が途切れないことを伝えている。入居の引越を手伝ってくれた人との関係性継続の支援や、料理、洗濯等できることをやり続ける支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日の時間の中で体操やレクリエーションなど一緒に行うこと多くあり関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前からの相談やその後の様子など家族と連絡を取り対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いや不安を聞き出し家族に相談やカンファレンスの議題に上げている。	日常の会話を通して、また日々接する中で利用者の思いや意向の把握に努めている。利用者の意向に沿って安心して穏やかに過ごせるよう、職員は落ち着いてケアに取り組むことを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族の方から生活の様子など伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録や実地記録を利用ながらし職員と共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の中でカンファレンスを行いそこで意見交換を行い反映している。	カンファレンスの際職員からの意見や提案により、介護計画の統一を図り、家族に変更点、意見や要望の有無を確認している。利用者中心の計画作成、計画に沿ったケアの記録に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化などケア記録などを通して職員間で共有し日々のケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方にもケアプラン更新時には確認してもらい家族の希望なども聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナウィルスの関係で出来ていない。解消されれば地域との交流なども行って行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に家族の要望を確認し希望があれば担当医を紹介している。	契約時にかかりつけ医の継続もできることを説明しているが、現在は全員が協力医による月2回の往診を受けている。歯科は定期検診がある他、必要に応じて2週に1回の訪問診療がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ノートの活用や看護師と連絡を取り対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員の方と連絡を取り合い努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHあさまでは事例がないが契約時に対応していること、また職員は職員会議で議題に上げ学ぶ機会を作っている。	重度化に向けた指針があり、入居時から段階的に説明する、としている。看取りの事例はまだないが、希望があれば協力医の判断の下、指導を受けながら看取り支援に取り組むことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成してある。また職員会議で議題に上げて対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウィルスの影響で自主訓練のみ行っている。地震などの災害時用に備蓄している。	年2回の避難訓練と毎月職員会議前に自主訓練を実施している。ハザードマップによる災害はない。食糧品、水、非常食、排泄用品を備蓄し、懐中電灯、卓上コンロ、鍋等を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中でその方に合った声掛けなど出来る様に職員間で考えている。	在宅時に近い環境を整え、集団生活による無理強いせず、安心して自分だけの時間を過ごせるよう個別を重視した対応に努めている。近づいて、ゆっくり言葉かけ、声かけをする配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者様が意見しやすいような環境を目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が1人ひとりが自分のペースで過ごせるように日々意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時など自分で着たいものを選ぶよう声掛けなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回献立を職員が作成している。日々の関わりの中で食べたい物や季節の物など工夫している。	職員が手作りの食事を提供している。片付けは利用者も積極的に手伝い、お雑煮は利用者が作っている。敬老の日等の行事の際や日曜日のおやつは利用者の希望に沿ったものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は実地記録で把握しておりその都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを促している。また週に1度歯科往診があり必要であれば診察を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実地記録を用いて排尿パターンなど把握しておりその中で声掛けなど工夫し対応している。	8名がトイレで排泄し、1名(介護度5)はおむつを使用している。失禁を気にする人が多く、夜はポータブルトイレを使用したり、居室に汚れた物を入れる籠を設置し、毎朝回収する工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用や乳製品の活用など行い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に5日入浴日を設けており本人の希望や体調などを配慮しながらその中で週2回入浴を行っている。	月曜日から土曜日まで入浴を実施し、利用者には予定日を知らせているが、本人に希望があれば変更している。連日の声かけはせず、拒否があれば曜日や時間の変更をして再度声かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に沿い無理にホールで体操やレクには参加せず居室で過ごしたい方などあれば対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し往診後の薬の変更などあった場合や家族の方が希望したときは説明出来る様準備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事の作成や入浴日のない日曜日などを利用し対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウィルスの関係で出来ていないが外の駐車場を外気浴やベランダを活用し対応している。	車椅子の利用者が増え、屋内のイベントが中心となったため、気分転換に個別で買い物やドライブに出かけている。椅子を外に出しておやつを食べたり、外気浴や花を見にベランダに出ている。	コロナ禍であっても日常的な外出ができるよう、個別で引き続き外出支援に取り組んでほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本の支払いなどは施設で対応しているが本人が希望された場合、家族と相談し本人が所持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があった場合、家族の方に確認し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目を多く使った施設で温かみがあり利用者様、家族から好評をいただいている。また利用者様と掲示物を作成し季節感を出すようにしている。	開放的な共用空間にはソファがあり、利用者が新聞を読んだり、一人になる時間を過ごしている。カレンダーや季節感のある飾り付けがあったり、ユーチューブを4Kテレビでレクや観賞に利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの真ん中に談話室の設置しており面会時や利用者様同士で話す場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に家族の方とも相談し使い慣れた家具やお気に入りの物などあれば対応していることを説明している。	自分の部屋らしくなるよう、馴染みの筆筒や衣料ケース、寝具、テレビ等の持込みを勧めている。趣味に応じて裁縫用具やオペラを聴くためのアイパッド、CDプレイヤーを備えている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など利用者様に分かりやすく掲示している。		